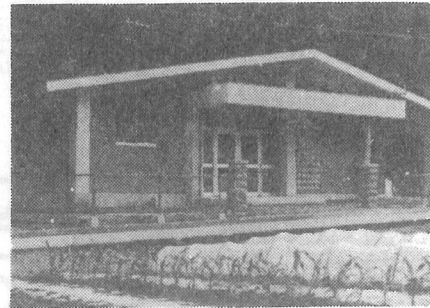


遠山共同利用施設が落成



▲ 部落民待望の共同利用施設

れました。

この施設は、航空機飛行の直下におかれ、騒音公害に悩まされている遠山区民に安らぎの場を提供しようと、空港公団と町が総工費一、八九〇万円をかけて、昨年十二月から建設していたものです。

式典は午前十時、来賓、関係者多数出席のなか、町長あいさつ、工事経過報告と進み、工事関係者に感謝状が贈られた後、来賓を代表して土屋議長が祝辞をのべ、伊藤静区長が部落を代表して謝辞をのべて終了しました。同区では、今まで青年館や集会



▲ 工事経過を熱心に聞く出席者

場がなく、昔からこのような施設を要望していたという伊藤区長は「関係者皆さんのお陰で立派な施設ができた。部落の者みんなの学習、集会の場として、有意義に利用していきたい。」と、落成に寄せる喜びを語っていました。

スピード違反一万円、信号無視六千円、駐車違反五千円——車を運転される方は反則金についてよくご存じと思います。無免許運転や酒酔い運転などは別ですが、それ以外の交通違反をした人は、この反則金を納めること

交通反則金はこのように使われています

使われています

とによって刑事裁判や家庭裁判所の審判を受けずに済みます。ところで、この反則金は、銀行や郵便局に払い込むものですが、その後これらのお金がどのように使われているのか、ご存じない方

交付金(特交金)として、そのまま都道府県、市町村に交付され、使途は法令で、歩道、ガードレール、道路照明をはじめ、横断歩道や道路標識などの施設整備に使うよう限定されています。

また、「特交金」の交付額は、人口密度や事故発生件数などにより決められ、都道府県や市町村ごとの取り締まり件数には全く関係がありません。

この反則金が警察官の給料や警察の建物の新築、警察の車両の整備などのために使われているのではないかと疑問もあるようですが、そのようなことは一切ありません。

母と子の会話

子供に用事をたのんだり、何か注意をしたとき、いつも素直に「はい」と返事をしてほしいと思うのは、お母さんにしてみれば当然でしょう。

しかし、子供には子どもなりの理屈があつて、成長するにつれて、なにかと言いつても、素直に言うようになってきます。

言い訳をする子供は、見た目には素直でないように映るもので、だからといって、言い分も聞かずに頭ごなしにしかるののは考えもので

す。言い訳をするようになるという事は、ある面での自分のしたこと、したいことを自分で説明し、主張することができるようになったという事なのです。それは、自我に目覚めていく一つの過程ともいえるでしょう。

言い訳をする子

一方的にしかるのはよそう

お母さんとしては、まず、言い分を十分聞いてやって、子供の本心をつかむことです。そうすることによって、時には、親の先走りや誤解、一方的な押しつけであったことに気づく場合もでてきます。また、子供にしても、自分の言い訳がその場のごまかしであったり、単なる利己主張にすぎないことがわかって、貴重な反省の機会になったりします。

しつけは、親と子の心の触れ合いから始まります。触れ合いがあつてこそ、子供の言い分と親の願いが同じ

「土俵」で交流することができるとです。この親子の「交流の土俵」から、子供は必要なきは自分の意思や主張をはっきり言い、しかも、相手の心や意向をも理解するという対人関係のエチケットを学んでいくのです。

